

付記

探索報告は以上で、謎もあらかた解けたものと思っていたのが、後に入手した資料によって見落としがあることに気づいてしまった。追加調査することを目的に覚書きのつもりで記しておきたい。はつきりしないことも多々あるので、面倒臭い方はここで読み終えていただいてもよい。

資料は生物史学研究2009年3月号に掲載された、川端一弘氏「旧四日市製紙資料から復元した伐採前の大台ヶ原林相」だ。この中に興味深いものが描かれた地図が載っている。



川端一弘「旧四日市製紙資料から復元した伐採前の大台ヶ原林相」生物史学研究No.81 (2009) より引用

新富士製紙（四日市製紙の流れをくむ製紙会社）に残されていた伐採地の地図。キャプションには「大台原山東ノ滝流域図拡大図」とあり、伐採予定地の立木数を書き込んだものだ。図の左端に軌道基点がちらっと描かれているが、それよりも注目したいのは、元木谷とシオカラ谷の出会いに『機械場』が置かれ、そこから牛石ヶ原の稜線に向けて

『引揚線』なるものが引かれていたこと。元木谷の中腹には『事業所』が置かれ、そこと『機械場』を結ぶ木馬道もあったらしい。惜しむらくはこの図、いつ作られたものなのかはつきりしない。